

第1回 音楽科研修会（小学校） 会場：浜松市教育会館

今年度からサーウ音楽ホールで行われる1～7部会の「浜松市小学校音楽科研究発表会」について、選曲や運営方法についての追加説明がありました。「学校の音楽文化の土台となる校歌を通して音楽に親しみ、よさを味わおう」というテーマのもと、3年ぶりに開催される予定です。後半は、音楽主任の顔合わせを兼ねた情報交換会が行われました。新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、どのように音楽科の授業を行っているか、校内の音楽行事はどのように運営しているかなどを話し合いました。タブレットなどのICT機器を利用して鍵盤楽器指導をしたり、録音機能を使って練習したりしている学校もありました。また、外や体育館等、換気を意識した場で音楽を行ったり、楽器を使用してよい教室を決めていたりする学校もありました。話を聞いていると、生徒数や施設面、子供の実態や教科担任制の導入度合いなど、様子は各校異なるため、それぞれの学校が困っていることや対策は様々でした。しかし、音楽授業をよりよいものになりたい、楽しくしたいという共通の思いをもった同志との話はとても有意義で、参考になりました。今後もこのような情報交換の場がもてたらと思います。



第1回 音楽科研修会（中学校） 会場：浜松市立南部中学校

東京都の墨田区立墨田中学校 主幹教諭 木村 幸史先生を講師に迎え「デジタル教科書を用いた授業実践について」というタイトルで、墨田区立墨田中学校の音楽室と、浜松市立南部中学校をオンラインでつないで研修会が行われました。中学2・3下巻「花」と鑑賞教材「ブルタバ」を使いながら進められました。「花」に関しては、デジタル教科書と電子黒板をつなぎ「情景を思い浮かべながら言葉を大切に合唱しよう」という言葉の拡大表示をしたり、電子黒板に専用のペンで書き込み「子音の「F」をしっかりといきましょう。」「（拍子の部分を示しながら）拍子は何ですか？」と提示したりする方法が紹介されました。QRコードを読み込み、デジタル教科書を使っての「作曲者の紹介」も行われました。「ブルタバ」に関しては、デジタル教科書上の楽譜をクリックすることにより、どのような旋律をどの楽器で表現しているのか演奏と楽譜上の示された部分が連動して表示されました。楽譜が読めない生徒にとって、理解を深める助けとなることが分かりました。また、円滑な創作活動のために示された音符を組み合わせる方法なども紹介されました。限られた授業時間数を有効に使うためにも、デジタル教科書の有効な活用方法について今後も研修を深めていきたいと思いました。

